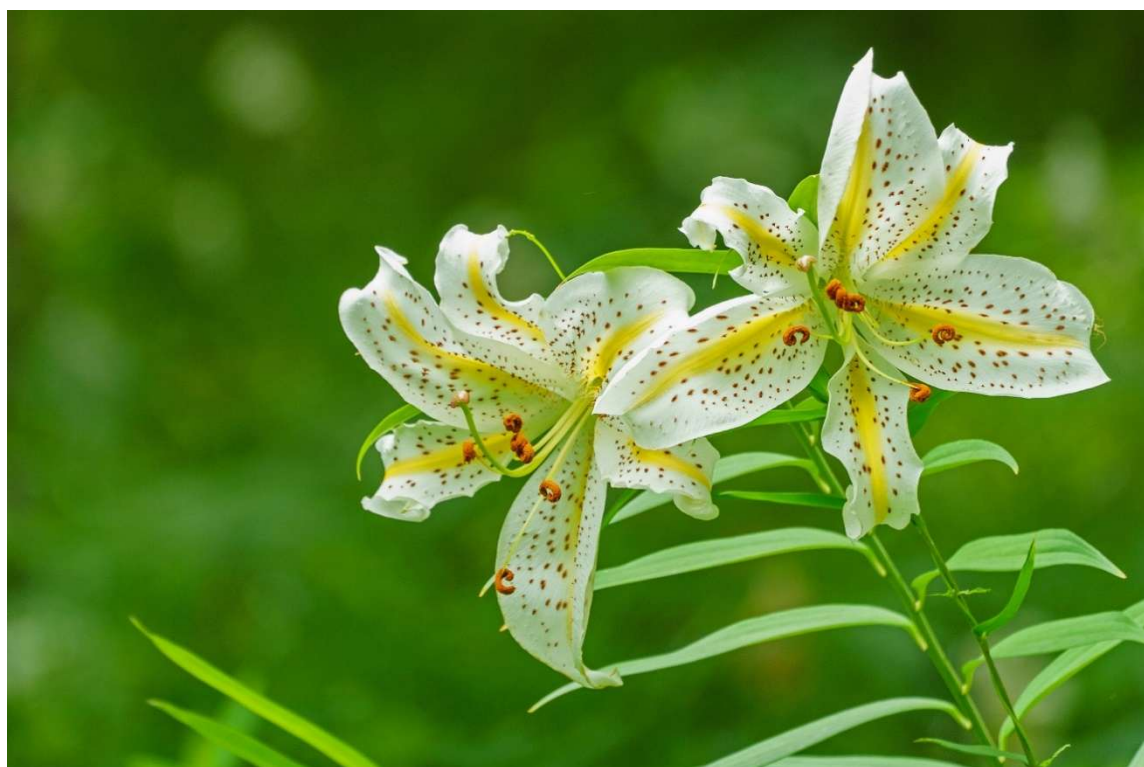


きすげ

No.43

令和7年3月31日

浅間山自然保護会



ご 挨拶

浅間山自然保護会会長 前原 義彦

長年にわたり会長として当会を率いてこられた山田会長が退任され、今年度から未熟ながらも私が会長職を引き継いでおります。それに加えて経験豊富な多くの役員も退任されて近年になく大幅な役員の変更となりました。役員数は3割減、少し若返りが図れたものの平均年齢は依然高齢の70台半ばと弱体化したともいえる役員体制ではありますが、今までに不十分と思われたことを新体制になって少しでも実施したいと考えて、一部の活動を制限してでもメリハリをつけた活動を心がけてきました。

重点を置いたのは、i) 保全作業では保護会の本来の使命でもある浅間山の自然環境維持に特化すること、ii) 都に代り公園の運営管理を行う指定管理者との連携を強化すること、iii) 会員の植物に関する関心を高め知識を深めることなどです。一方で地域貢献や浅間山を知ってもらう活動は少し制限を置かざるを得ませんでした。未だ十分な成果が出ているとは言えませんが、当面はこの方針に沿って自然豊かな公園にした上で浅間山を広く知っていただければと思います。

皆様にはこのような浅間山自然保護会の活動に理解を頂き、今後ともご支援いただければ幸いです。多くの方が当会の仲間となって次代の浅間山自然保護会を担っていただくことを願っています。

◆『もやかき』をしました◆

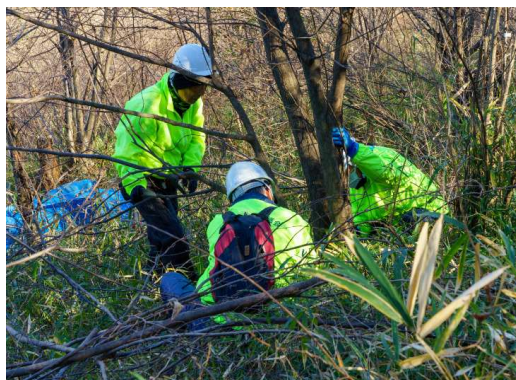
令和7年1月に武蔵野の公園パートナーズの指導のもと堂山北側斜面の『もやかき』作業を行いました。

『もやかき』(あるいは『もやわけ』)は森を再生する萌芽更新という一連の作業の一部で、樹木を伐採後切り株から伸びる多数の枝を数年後に間引きして育成したい数本の枝に減らす作業のことです。萌芽更新により林床に陽が差し植物の発芽を促して豊かな森に戻します。

堂山北斜面は7年前に皆伐(カイバツ)しました。既に切り株からの新しい枝が

大きく育ってきており、来年以降も継続して実施することになりそうです。

当会としても初めての作業であり、どのように森が変化していくのか興味のあるところです。



ナラ枯れ被害後の浅間山の雑木林

武蔵野の公園パートナーズ パークレンジャー 舟木 匡志

《浅間山公園のナラ枯れ被害について》

ナラ枯れとはカシノナガキクイムシという甲虫が媒介する菌により、樹木の水を吸い上げる機能が阻害され、ブナ科樹木が枯れてしまう病気です。

浅間山公園では、東京農工大学との協働調査により、約 450 本のコナラがナラ枯れ被害にあっていることがわかっています（2023 年度末時点）。園内では園路沿いを中心に、安全確保のための伐採を進めています。

《伐採した後の植生はどうなっていく？》

伐採が進むと 5m 程度のスポット的に明るくなった箇所や女坂下にあるトイレ前のように広く明るくなった箇所も見られます。



伐採後明るくなったエリア

明るくなった箇所は今後どのようなようになっていくのでしょうか。私が狭山丘陵で追跡調査を行った結果から言えることをお伝えします。

伐採後に真っ先に伸びる植物はアカメガシワやクサギなどのパイオニア種と呼ばれる植物です。これらは明るい環境になると我先にと伸長して葉を広げ、真っ先に光を獲得する戦略をとっている植物です。その後、手を入れないとアカメガシワに覆われてしまいます。

コナラも発芽するのですが、アカメガシワよりも

成長スピードが遅いため、アカメガシワの葉の下になってしまい、大きくなれず枯れてしまいます。そのため、勝手にはコナラ・クヌギの雑木林にはならないのです。

浅間山公園でコナラ・クヌギが多いのは、古くから薪をとるために意図的に残して管理していたからです。

《浅間山公園で今取り組んでいること》

3 年前から市民参加型で地域性種苗を育て、雑木林の再生を図るプログラム「森キッズ DAY ドングリ de 森づくり」に府中市と共催で取り組んでいます。園内で取ったドングリから苗木を育て、伐採跡地に植樹するというものです。今年度は女坂トイレ前の伐採地に 28 本のコナラの苗木を植えました。苗木は植えたら終わりではありません。明るくなった環境では、あっという間にササやつる植物が生い茂り、苗木が被圧され弱ってしまいます。そのため、夏と秋には除草作業を市民の方と協働で行いました。

雑木林の再生は数十年かかる長期的な取り組みです。次世代にこの浅間山の自然を引き継いでいくために、浅間山に関わっているみなさんと取り組んでいきたいと思います。

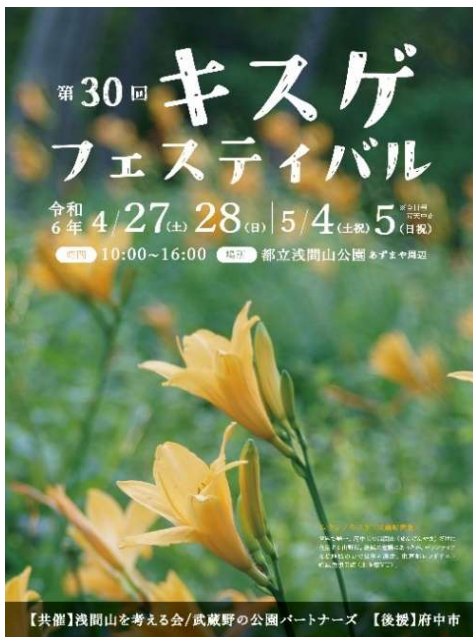


苗木の植え付け時の様子

第30回キスゲフェスティバル

令和6年4月27日(土)・28日(日)、5月4日(土)・5日(日)

今年は第30回目の記念すべきフェスティバルとなりました。記録をたどると平成5年(1993年)に当会が第1回目を開催して写真展示と園内巡回説明を行っています。第5回目からは「府中野鳥クラブ」にも参加いただいて両者の共催として続けてきました。近年は当会を含む各ボランティアや行政等で組織する「浅間山を考える会」と公園の指定管理者「武蔵野の森パートナーズ」との共催で実施しています。今年は連休最中の開催でしたが、最初の頃は5月中旬に開催していたようで温暖化によるものか開催日が5日以上早まっています。参加する団体も徐々に増えて、今年は新たに「お山であそぼう実行委員会」が加わり木の実などを使ってクラフト作品作りなどを紹介していました。当会は例年どおり葉っぱプリントと園内植物ガイド、植物の写真展示を行いました。



【天候】

昨年は雨で2日間中止になりましたが今年は4日間とも天候に恵まれて新緑の木陰でムサシノキスゲやキンランの開花を存分に楽しんだけただけたことと思います。また初日を除く3日間は25℃を超える夏日となりました。あずまや前のクヌギの高木が枯れてフェスティバル直前に伐採した為、葉っぱプリントは日陰を求めて移動しながらの実施でした。



キンラン

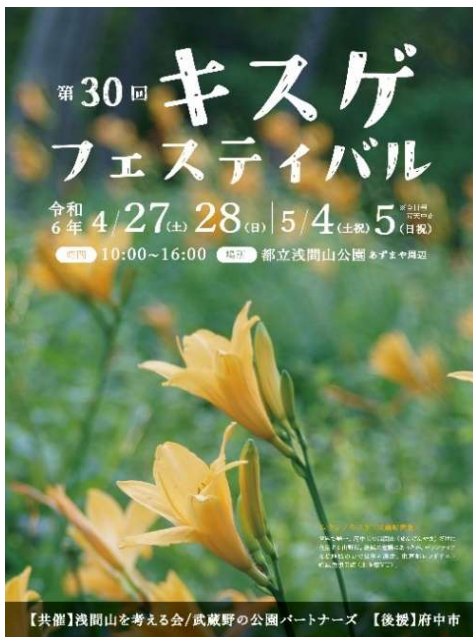
【開花状況】

ムサシノキスゲの開花状況は例年並み、咲き誇るという程ではないがそれ程寂しい訳ではないという感じでしょうか。もう少し増えてもいいかなと思います。キンランは女坂南斜面や前山西側斜面の群生地以增加しており今年は更に見事な出来でした。フェスティバル前半はキンラン、後半はムサシノキスゲが最盛期でした。一方ギンラン、ササバギンランは大変少なくなり来園者も探すのに苦労されていました。

第30回キスゲフェスティバル

令和6年4月27日(土)・28日(日)、5月4日(土)・5日(日)

今年は第30回目の記念すべきフェスティバルとなりました。記録をたどると平成5年(1993年)に当会が第1回目を開催して写真展示と園内巡回説明を行っています。第5回目からは「府中野鳥クラブ」にも参加いただいて両者の共催として続けてきました。近年は当会を含む各ボランティアや行政等で組織する「浅間山を考える会」と公園の指定管理者「武蔵野の森パートナーズ」との共催で実施しています。今年は連休最中の開催でしたが、最初の頃は5月中旬に開催していたようで温暖化によるものか開催日が5日以上早まっています。参加する団体も徐々に増えて、今年は新たに「お山であそぼう実行委員会」が加わり木の実などを使ってクラフト作品作りなどを紹介していました。当会は例年どおり葉っぱプリントと園内植物ガイド、植物の写真展示を行いました。



【天候】

昨年は雨で2日間中止になりましたが今年は4日間とも天候に恵まれて新緑の木陰でムサシノキスゲやキンランの開花を存分に楽しんだけただけたことと思います。また初日を除く3日間は25℃を超える夏日となりました。あずまや前のクヌギの高木が枯れてフェスティバル直前に伐採した為、葉っぱプリントは日陰を求めて移動しながらの実施でした。



キンラン

【開花状況】

ムサシノキスゲの開花状況は例年並み、咲き誇るという程ではないがそれ程寂しい訳ではないという感じでしょうか。もう少し増えてもいいかなと思います。キンランは女坂南斜面や前山西側斜面の群生地以增加しており今年は更に見事な出来でした。フェスティバル前半はキンラン、後半はムサシノキスゲが最盛期でした。一方ギンラン、ササバギンランは大変少なくなり来園者も探すのに苦労されていました。

森の不思議な力「フィトンチッド」

浅間山自然保護会 山田 義夫



大地に根を張り動くことができない樹木が、害虫などの外敵から攻撃を受けたり、傷ついたとき病原菌に感染しないよう、傷口を消毒したり、害虫を寄せ付けないためにフィトンチッドを作り出し、自ら身を守っています。

この植物の不思議な力は、1930 年ころ、ロシアの生態学者ポリス・ペトロヴィチ・トーキン教授によって見いだされ、ギリシャ語の「フィトン（植物）」と「チッド（殺す）」を合成してフィトンチッドと名付けました。

フィトンチッドとは、樹木が生きるために作り出した揮発性の有機化合物です。その成分は樹種によって異なるものの、効果に変わりありません。

フィトンチッドは、葉や茎、根で作られ放出して、自から害虫や細菌などの外敵から成長環境を守っています。

近年の研究では、このフィトンチッドこそ樹木が何百年、何千年生き続ける生命力の源だと考えられるようになりました。

この機能が、偶然にも人間にとって好ましい影響を与えています。

【フィトンチッドのさまざまな効果】

① 消臭・脱臭効果

フィトンチッドは悪臭を放つ成分に付着して、無害化してしまいます。森に行くと本来な

ら動物の死骸や排泄物、腐敗した植物など臭気が漂っているはずの森の中が、「空気が新鮮でおいしい」と感じられるのは、フィトンチッドが空気を浄化しているからです。消臭しているからです。

② 防カビ、防菌、防虫効果

多湿な日本では、昔から建材として木材が使われ、カビなどの影響を抑えた。また樹木を加工して作られた風呂やタンス、樽、おひつ、まな板、経木等の木製品になって、その効果に変わりない、さらに葉は柏餅、桜餅、笹団子を包み、防菌、防虫のみならずその香りを楽しんでいます。

③ リラックス効果

さまざまな実験や研究が行われ、フィトンチッドが医学的に心身を深いリラクゼーションに導く効果が明らかになってきました。居住環境に存在する様々な木材や畳などの香り、即ちフィトンチッドを体内に取り入れることで「ストレスホルモンの減少」「血圧、心拍数の低下」や「免疫力上昇」「抗がんタンパク質」の増加も認められた。植物が生み出す香りは、外敵になる動物や細菌などを駆逐するが、人には無害である。私たちの生活、衣食住全て自然の恵みをいただいています。私たちはこの自然と共生するには、まず身近な浅間山の自然を保全したいと思います。

森キッズ「クラフト DAY×どんぐり de 森づくり」

お山で遊ぼう実行委員会 千年原 聡

日時：2024 年 10 月 14 日（月・祝日）

10:00～13:00

会場：都立浅間山公園（あずまや周辺）

対象：だれでも（小学生までは保護者同伴）

コンセプト：秋の公園で、どんぐりや木の枝など、森の素材を使ってクラフト作りを楽しもう！

参加者：約 80 名

（浅間山自然保護会からの協力スタッフ：8 名）

共催：府中市環境保全活動センター

武蔵野の公園パートナーズ

協力：浅間山自然保護会、かんきょう塾ネット

ひな草の会、お山で遊ぼう実行委員会

上記のイベントを晴天の下で、私は府中市プラッツ登録の市民団体「お山で遊ぼう実行委員会」の立場で「浅間山自然保護会」の協力を得て「どんぐりクラフト+絵本の読み聞かせ」のイベントを実施いたしました。

今年から、会場を「浅間ひろば」から「あずまや前ひろば」に変更し、日ごろから浅間山の散策を楽しんでいる方々や一般の観光客などの飛び込み参加者も取り込み、昨年に比べて数倍の参加者が集うイベントをスタッフともども楽しむことができました。

また、どんぐりや木の枝などを使ってのクラフト作りは、「どんぐり」「松ぼっくり」「シダーローズ」「栃の実」「ローズマリー」などの素材を「浅間山自然保護会」などの協力で、たくさん用意ができ、多くの子供たちやその親御さん達に時間ギリギリまでクラフト造りを楽しんでいただきました。

更に、新たに未就学児向けに「絵本の読み聞かせ」イベントも「あずまや」の中で実施し多くの参加者を得ました。

12 時からは、女坂下の三角地帯で除草作業などの森のお手入れ体験にも多数の参加を得て実施いたしました。

私は、「浅間山自然保護会」の一員でもあり、0 このようなイベントを通して、浅間山に行みたい方、浅間山で何かをやってみたい方、浅間山のことをもっと知りたい方々を掘り起こしたく思います。

そして、将来は浅間山のファンとなって、この山の自然保護活動に参加していただけるきっかけとなれば大変ありがたいと思います。

今回は他団体の方々と協力して楽しいイベントを実施することができました。

「共感からつながるを実感」した秋の一日になりました。



2022 年桜の真っ盛り、私と妻は来日した。それぞれの地区の状況を知らずに便利さや値段のため、コロナウィルスに強いられた生活制限により、まだ閑散とした新大久保駅に近いマンションに引っ越した。やはり半年が経たないうちに K-POP の大ファンやお酒好きの方などが戻ってきて大久保通りは毎日深夜まで賑わいの状態になってきた。周辺の店員さんはきっと喜んでいだろうが、私は大変失望した。以前は静かな戸山公園でさえうるさくなってしまった。(戸山公園にある箱根山を知らない方はいないだろうと思うが、万が一知らない方がいたら、あそこは本当に素敵な花見スポットで、おすすめだ。)

コロナウィルスのせいで2年間延期された奨学金プログラムに参加している私は日本語学校に通っている間も、造園会社にインターンシップしている間も、騒音や自然の貧困をできるだけ無視して、勉強を頑張った。これまでイギリスで田舎に住みながら歴史的な邸宅の庭手入れに努める暮らしから遠く離れている東京の生活は、必ずうるさいがこれからずっと面白いと思う。

あっという間に私の奨学金が終わって、次に何をしようかと考える暇があった。会計士として働く妻は東京で入社したことだけではなく、日本の自然や文化などに心を奪われたので日本に住み続けるのは確かだった。しかし新大久保を立ち去ることが決まった。緑を中心にして住むところを探し始めた。そうやって2023年の秋から小金井市に住むようになった。

残念ながら、引っ越してすぐ大怪我をして散歩さえ辛かった。リハビリして野川を歩きすぐ多摩霊園まで歩けるようになってよかった。

霊園の南側を通って、そこから浅間山に初めて入った。ここに引っ越したことはなんと素晴らしいことか！ 体も心もリハビリになった。

元気になったとともに周りの自然や周りの人たちをちゃんと知りたいと思い、ボランティアの機会を調べた。実は、野川公園の自然観察園にも問い合わせしたが山田前会長の対応が温かったので、2024年3月に浅間山自然保護会に入会した。入会する前に山田前会長が少し申し訳なさそうに「ササを刈るのがメインだよ」と言ってくれたが、今返したいのは「ササを刈るのは楽しいよ！」と思う。

最初の一年で会員の皆さんと作業したりして、浅間山の四季が見えた。キスゲはもちろん、キンランが咲いている時期は驚いた。最初訪れた茶色くてカサカサな森は鮮やかな青葉と金色でキラキラ輝いている。入会したばかりで、まだ浅間山の秘密は少ししかわからないので、みんなの指導をいただいてよかった。特に植物の名前と見分け方に熱心な前原会長の講義とみんなの教えはありがたい。

私はこの1年間は過渡期で新しい住まいになれたり、体の体力を回復したりした。新大久保の音声の代わりに、鳥の囀り、みんなの優しい声、虫や葉のざわめいている音は人生の新段階のサウンドトラックになって、感謝している。



初めて浅間山に入った時(1月)に撮った写真

浅間中学校 1 年生による浅間山保護活動

浅間中学校は校区内に浅間山があり、浅間山に自生するムサシノキスゲを左右対称に配した校章を制定されています。

また、校歌も～♪浅間山の濃き紅葉♪～と歌われているように、浅間山とゆかりの深い学校です。

その縁あってか、浅間山を活動拠点としている我が浅間山自然保護会と過去数十年にわたり交流が続いています。

浅間中学校は里山環境保全活動にも積極的に関わり、毎年『ふるさと学習』と称して浅間山保護活動を継続されています。

今回ご紹介するのは1年生による体験学習としての草刈り作業です。



10月4日金曜日 14時に体操着に着替えた1年生が、先生たちと共に浅間山のあずまやに集合しました。その数200名～壮観です。

作業場所はあずまやから明大グラウンド方向に下がった『小鳥の水場』と呼ばれている約1400㎡の広場です。

前日に6区画に分けロープを張っていましたが、1組～6組に担当区域を割り当て、14時15分から作業を開始しました。

作業内容は広場に生い茂っている草木の刈込作業と運搬作業です。



事前学習の成果もあってか200名の集団が広大な場所を、一瞬にして荒野から解放してくれました。

15時作業終了！時間制限があり、とても全エリアの刈込みは難しいだろうと思っていましたが、大きな誤算でした。

1年生196名のパワーに圧倒され続けた45分間でした。



前日の雨による足場不良、慣れない鎌の使用による怪我を心配していましたが、無事終了して安堵いたしました。

中学生の皆様には、府中市が誇る浅間山の自然を、人生の節々で思い出していただけたら幸いです。

ありがとう！浅間中学1年生諸君！

(丸本 智運)

若松小学校3年生授業支援

日時：2024年5月10日（金）9：30～11：00

参加者：若松小学校3年生児童105名

（浅間山自然保護会：6名が対応）

五月晴れの中、毎年恒例の若松小学校3年生児童を対象とした課外活動が浅間山で行われました。

浅間山の歴史と特徴、希少植物の説明、四季折々の浅間山の姿、コナラとクヌギの木の見分け方などを、合計105名の児童を3班に分けて浅間山の小径を探索しながら説明いたしました。

児童たちは、浅間山の保護会員の説明に聞き入ったり、メモを取りながら質問したりと課外活動をととても楽しんでおりました。



（千年原 聡）

若小ふれあいまつり

2024年7月20日（土） 若松小学校に於いて「若小ふれあいまつり」が行われました。

私は浅間山自然保護会としての参加は初めてです。

若松小学校の周辺地域の中学校、保育園などの子供から大人までの幅広い年齢層が集うお祭りです。

浅間山自然保護会も永年に渡りこのイベントに参加しています。

出展は葉っぱプリントです。

若小の児童達とは、これまでも浅間山で関わりを持っています。

小学生たちは慣れた手つきで私達より優れたアイディアを出し、楽しそうに2～3人のグループで創作を行っていました。

なかには親御さんと一緒に楽しまれ、皆さんとてもお上手です。



会場にはいろんなイベントコーナーが有るのですが、今回は残念ながら見学出来ませんでした。

このような地域の結びつきが、ずっと続くと良いと思いました。

（神田 喜美子）

植物観察会 『御岳山』

御岳山の植物観察に会員8名で行きました。
天気も良く山歩きには最適です。

御岳駅からバスに
乗りケーブル乗り
場に向かいます。

ケーブル乗り場も
人が多く、皆さん目
的は同じレンゲショウ
マを見に行くことで
す。

ケーブルを降り坂道
を登っていくと、目
の前にレンゲショウマ
が淡い紫色の美しい
花をまばらにやや下
向きにつけているの
で写真を撮るのは、
大変です。

和名は蓮華升麻、升麻はサラシナショウマの
漢名です。

花がハスの花に、葉がサラシナショウマに似て
いることからこの名がつけられました。

花期は7月～8月、キンポウゲ科ルイヨウショ
ウマ属、花の径は3.5cmです。

レンゲショウマの花を満喫し、その後、御嶽
神社に行き山道を歩くのが大変でした。山を下
り多摩川沿いを歩き草花を楽しみながら澤村
園・小澤酒造に向かいます。酒蔵の中は涼しく
気持ち良かったです。

その後日向和田にある、へそまんじゅうの店に
立ち寄り、美味しく頂きました。

今回の植物観察会は山、川、花と自然に触れ合
う小さな旅でした。

(神田 喜美子)

グループライン『浅間山だより』

浅間山自然保護会のグループラインを
『浅間山だより』と名付け、2024年10月1日
から開始いたしました。

保護会会員の希望者だけのメンバーですが、
それぞれ写真などを投稿し、その情報をみんな
で共有しています。

浅間山で咲いている花の写真を投稿する人
その花の名前や解説をしてくれる人、そしてそ
の情報を見て浅間山へ出かける人、そんな連鎖
が始まっています。

浅間山に限らずほかの公園や旅行先での写真、
道ばたで撮った花の写真の投稿もあります。

このような投稿に於いてもみなさん次々と関
連のある情報を載せて情報交換をしています。
蝶の話題で盛り上がったこともあります。



レンゲショウマ



ご自分で撮った写真を投稿することを楽し
んでいらっしゃる方、また自分は投稿出来ない
けど、このラインを見ているだけで楽しい
とおっしゃって下さる方もいらっしゃいます。
いずれにしろ楽しんで頂けたら幸いです。

現在『浅間山だより』のメンバーは24名です。
保護会会員の約半分の人数です。

まだ、このグループライン(会員限定)のメン
バーになっていない方、いつでも歓迎です。

(住吉 晴美)

ムサシノキスゲ及びキンラン類の株数調査

当会ではムサシノキスゲやキンラン類を注目種として維持管理に努めていますが、その数を直接把握したことはなく、今年は出来が良いとか最近減少しているとか定性的な把握にと留まっていました。指定管理者が3年毎に行っている調査は代表的な複数の小区域を調査してその結果から公園全体を推定しており、直接株数を知りたいという要望に応えてはくれません。そこで全山のムサシノキスゲ等の株数を直接把握して今後の育成の参考とすることにしました。

【調査方法概要】

調査日：2024年4月23、25、30日及び2024年5月8、12、22、24日 合計7日間

調査人数：半日×8回×平均3名＝半日×総計24名

調査方法と制約：

<ムサシノキスゲ>

- ・地域を小さいブロックに分けてムサシノキスゲの株数を直接数える
- ・茎（葉）を多数出している株も1株とする
- ・1株から出ている花茎の数も調べる
- ・調査区域外には殆ど生育しておらず、調査結果を全山調査とみなす
- ・花が終わった後、多くの花茎が消えることが判った

この為5月後半の調査では株数は妥当でも花茎の数は把握しきれていない

<キンラン>

- ・花を付けない株は殆どないので、カウントした株数＝花茎の数とみなす

<ギンラン、ササバギンラン>

- ・花が咲いている期間が短く、花が終わると株を見つけるのが難しい
- ・5月後半の調査では花が終わった株があり正確には把握しきれていない

【調査結果】

<ムサシノキスゲ>

- ・総株数は4,637株、その内1割の448株が花茎を出している
- ・予想以上に花を付けない小さい株が多い事が判った
- ・花をつける株の割合が高かったのはあずまや道、新小金井園路下側、女坂下部、低かったのは前山北斜面、中山北斜面で、比較的日当たりの良いところに花を付ける株が多い
- ・花茎の総数は697本、1株当たり平均1.5本程度の花茎を出していることになる
- ・5月24日に前山すその道園路下側一帯で、花が終わった後の花茎の状況や果実の状況を調べたが、果実をつけるのは花茎の1割程度しかなく、花茎は消失しているものも多かった

		ムサシノキスゲの調査結果						
場所		調査日	花茎なし	花茎あり	合計	花茎株率	花茎総数	株毎花茎数
			a	b	a+b	b/(a+b)	c	c/b
1. あずまや道		4月23日	496株	140株	636株	0.22	217本	1.55本
前山と中山の間（あずまや～明大まで）								
2. 前山北,西,南斜面		4月25日	1,231株	112株	1,343株	0.08	211本	1.88本
あずまや～倉庫～駐輪場～新小金井側～富士見百景下								
3. 中山北斜面		4月30日	753株	28株	781株	0.04	32本	1.14本
4. 堂山女坂南側		5月8日	143株	45株	188株	0.24	60本	1.33本
5. 女坂北側(下)		5月12日	461株	118株	579株	0.20	172本	1.46本
6. 女坂北側(上)		5月22日	1,105株	(5株)	1,110株	(0.00)	(5本)	(1.0本)
合計			4189株	448株	4,637株	0.126	697本	1.56本
						(5/22除)		

<キンラン>

- ・キンランの総株数は1,586株であった
- ・感覚どおり女坂南側斜面と前山西斜面上部(新小金井側)の2か所で全体の84%が見られた
- ・キンランの多いエリアではムサシノキスゲは少ない
- ・堂山では女坂の南側にキンラン、北側にムサシノキスゲと住み分けられているようである

<ギンラン、ササバギンラン>

- ・ギンラン18株、ササバギンラン91株と少数の株しか確認できなかった
- ・ギンラン、ササバギンランは花が終わると確認が難しく全数を把握できてはいない
- ・いずれも過去に群生していても同じところでも生育するとは限らない

ギンランはあずまや周辺で、ササバギンランは富士見百景南側斜面（富士見坂の南）で今年増加しているのを確認した

キンラン等の調査結果				
場所	調査日	キンラン	ギンラン	ササバ ギンラン
1. あずまや道	4月23日	80株	0	4株
前山と中山の間（あずまや～明大まで）				
2. 前山北,西,南斜面	4月25日	311株	17株	49株
あずまや～倉庫～駐輪場～新小金井側～富士見百景下				
3. 中山北斜面	4月30日	89株	0	17株
4. 堂山女坂南側	5月8日	1,029株	0	13株
5. 女坂北側(下)	5月12日	73株	1株	2株
6. 女坂北側(上)	5月22日	4株	0	6株
合計		1,586株	18株	91株

令和 6 年度事業報告

月	内 容
4	第 42 回定期総会 (4/14) キスゲフェスティバル (4/27・28) キスゲ他株数調査
5	キスゲフェスティバル (5/4・5) 若松小 3 年学習支援 キスゲ、キンラン他株数調査
6	植物観察会 (野川公園)
7	若松小『ふれあい祭り』
8	植物観察会 (御岳山)
9	安全講習会 植物観察会 (野川公園)
10	浅間山保護活動 (浅間中) 森キッズクラフト DAY×どんぐり de 森づくり 植物観察会 (高尾山)
11	会報編集開始 浅間山保護活動 (若小父兄会) ダイヤモンド富士 (11/21)
12	会員忘年会 植物観察会 (野川公園)
1	初日の出遥拝 ダイヤモンド富士 (1/21) 植物観察会 (浅間山公園)
2	
3	会報『きすげ』43 号発行

* 定例作業：毎月第 2 土曜日、第 4 日曜日

* 自主作業：毎月第 3 金曜日

* 役員会議：毎月第 2 火曜日

* 浅間山自然保護連絡会：毎月第 2 金曜日

* 浅間山を考える会：年 4 回

寄付者	
秋林奈津子様	加藤洋子様
小藤東洋様	東京都立初等学校様
福島禎子様	山田義夫様
若松屋様	(五十音順)

令和 7 年度事業計画

月	内 容
4	第 43 回定期総会 (4/13) 浅間神社例大祭 キスゲフェスティバル キスゲ他株数調査
5	キスゲフェスティバル 若松小 3 年学習支援 浅間山保護活動 (浅間中) キスゲ、キンラン他株数調査
6	浅間山保護活動 (若松小)
7	若松小『ふれあい祭り』
8	安全講習会
9	
10	浅間山保護活動 (浅間中) 森キッズクラフト DAY×どんぐり de 森づくり
11	会報編集開始 浅間山保護活動 (若小父兄会) ダイヤモンド富士 (11/21)
12	会員忘年会
1	初日の出遥拝 ダイヤモンド富士 (1/21)
2	
3	会報『きすげ』44 号発行

* 定例作業：毎月第 2 土曜日、第 4 日曜日

* 自主作業：毎月第 3 金曜日

* 役員会議：毎月第 2 火曜日

* 浅間山自然保護連絡会：毎月第 2 金曜日

* 浅間山を考える会：年 4 回

* 植物観察会：年 6 回開催予定

会費協力団体	
浅間町 3 丁目自治会様	つくし自治会様
武蔵野学園様	むらさき会様
山吹会様	(五十音順)

浅間山自然保護会会則

第1章 総則

第1条 名称

この会は、浅間山自然保護会（以下会という）と称する。

第2条 事務局

この会の事務局は会長宅に置く。

第3条 目的

この会は、浅間山の自然環境を保全して、生物の保護・育成及び史跡を保存することを目的とする。

第4条 事業

この会は、目的を達成するため次の事業を行う。

- 1 浅間山の自然環境の保全
- 2 全山の清掃活動
- 3 生物の保護・育成
- 4 監視
- 5 会報の発行
- 6 地域への貢献

第5条 組織

この会は、会の目的に賛同する者をもって組織し、正会員、団体会員、賛助会員で構成する。

第2章 会員及び年会費

第6条 正会員

正会員は、会の運営に協力して、すべての事業に参加、会の目的達成に努力しなければならない。

第7条 団体会員

団体会員とは、会の目的に賛同し、会の事業運営を側面から支援する各種団体をいう。

第8条 賛助会員

賛助会員とは、会の目的に賛同し、側面から支援する個人及び各種団体をいう。

第9条 年会費

1 正会員は1口1,000円、賛助会員は1口200円とする。

2 団体会員は、団体の規模により任意とする。

第3章 運営及び役員

第10条 機関

この会は、次の機関を置き会の意思決定を行う。

- 1 総会
- 2 役員会議
- 3 全体会議

第11条 役員

この会に次の役員を置く。

会長 1 名、副会長(会長補佐)2 名、他に役員若干名、監査役 2 名、相談役・顧問若干名。

第12条 役員の任期

この会の役員の任期は2年とする。

第13条 定期総会

1 定期総会は、正会員及び団体会員の代表者を以て構成し、年1回4月に開催する。

2 定期総会は、会の最高決議機関として役員の選出、事業方針、予算決算その他重要事項を審議する。

3 定期総会は、構成員の2分の1以上の出席で成立し、議決は出席者の過半数で決定する。

第14条 臨時総会

臨時総会は、役員の要請に基づき随時開催できる。

第15条 役員会議

1 役員会議は、役員により月1回開催する。

2 定期総会の定めに従い、浅間山の整備及び会の運営の具体的施策を検討する。

3 全体会議は役員会議の要請に基づき重要案件を審議する。

第16条 施行

この会則は、令和5年4月1日改訂施行する。

ボランティア 会員募集

浅間山公園の野草や樹木等の保護育成のため草刈りなどの軽作業を行います。

毎月2回 第2土曜日と第4日曜日

午前9時～午前11時

ご寄付の依頼

活動資金のご寄付を受け付けております。

よろしくお願いいたします。

《連絡先》 浅間山自然保護会 会長 前原義彦

Tel : 090-5704-9218

Mail : maehara167@yahoo.ne.jp



2024年12月堂山山頂の土盛り工事が完了しました

会報発行責任者

浅間山自然保護会 会長 前原 義彦



ウツギ



ノイバラ



コウヤボウキ

